

令和4年度 市民協働条例の施行状況の検討について

市民局 地域支援部 市民協働推進課

市民協働条例の施行状況の検討について


「この条例の施行の日から起算して3年ごとに、この条例の施行状況について検討を加え、その結果に基づいて見直しを行うものとする。」(横浜市市民協働条例附則第3項)

	振り返り対象期間	実施年度	内容
第1回	H25・H26・H27	H28	○ 市民協働の施行状況を検証し、検討報告書を作成(H29.3) ※諮問は行っていない。
第2回	H28・H29・H30	R1	○ 市民協働推進委員会へ諮問し(R1.9)、 答申をいただく(R2.3)。
第3回 (今年度)	R1・R2・R3	R4	○ 市民協働推進委員会へ諮問し(R4.6)、 答申をいただく(R5.3)。

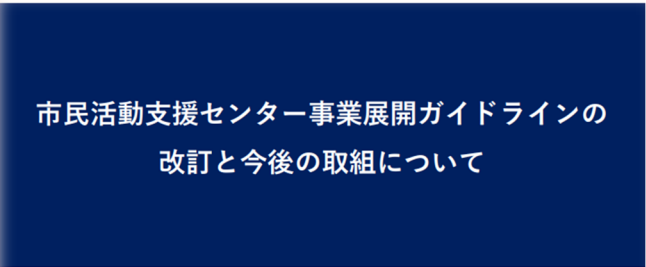
令和4年度のスケジュール

年月	市民協働推進委員会	内容
令和4年6月	第5期 第5回	<諮問> 市長から委員会あてに、市民協働条例附則に基づく条例の施行状況の振り返りを諮問。
令和4年9月	第5期 第6回	<審議(1回目)> 令和元年度から令和3年度までの3年間の市民協働の取組状況等について審議。
令和4年12月	第5期 第7回	<審議(2回目)> 令和元年度から令和3年度までの3年間の市民協働の取組状況等について審議。
令和5年3月	第5期 第8回	<審議(まとめ)> 答申(案)のまとめの確認
令和5年3月		<答申> 委員会委員長から横浜市長に答申 ※記者発表


前回答申と対応した主な取組①

項目	内容(概要)とそれに対応する主な取組
① 協働の範囲を広く捉える	<p>・公共的・公益的サービスの提供に関わる<u>施策立案にも市民が関わっていくことが求められる。</u></p> <p>・自治会町内会、NPO、企業、大学など、様々な主体同士の協働の取組に対して、<u>連携しやすい環境を整え、支援していくことが必要。</u></p>
	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 横浜市市民協働推進センターの開所➤ モデル事業を踏まえた「市民協働事業の提案支援事業」の開始➤ 「ポストコロナにおける活動に向けたNPO法人・市民活動団体アンケート調査」を実施、協働や連携に対する考え方を把握。


前回答申と対応した主な取組②

項目	内容(概要)とそれに対応する主な取組
<p>② 分野を超えた連携を図る</p>	<p>・福祉の分野、市民活動の隔てなく、<u>行政の側は、各区局が分野を超えて連携・協力し、地域の暮らしを支えるための課題を整理して対応を考えることが必要。</u></p> <p>・<u>持続可能な地域社会の形成に向け、自治会町内会やNPOが取り組んできた活動、地域課題に対し様々な主体が参画しやすい環境を作り、主体の能力の発揮や協働を進めていくことが大切。</u></p>
<p>第5期第4回横浜市市民協働推進委員会 資料4-1</p>  <p>市民活動支援センター事業展開ガイドラインの改訂と今後の取組について</p> <p>令和4年3月22日 市民局地域支援部</p>	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 中間支援組織の機能強化に向けた「市民活動支援センター事業展開ガイドライン」の改訂➤ 市民協働局間連携会議を設置➤ 横浜市市民協働推進センターの開所(再掲)


前回答申と対応した主な取組③

項目	内容(概要)とそれに対応する主な取組
③ 協働の裾野を広げる	<p>・地域において草の根レベルで活動している団体や、地域に根差し貢献をしている企業がある。</p> <p>・市民の小さな活動や協働経験の少ない団体の思いにも目を向け、また、個人が持つ経験や専門性、意欲を活動につなげるための伴走支援やコーディネートをしていく。</p>
	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none">➢ 「市民公益活動緊急支援事業」や「自治会町内会新しい活動スタイル応援事業」など、コロナ禍の市民活動を応援する事業を実施➢ 「協働の始め方スタートアップガイド」「NPO法人・市民活動団体応援ガイド」、協働の歩みとセンターの活動を紹介する「インスパイラル」などの発行➢ 「ポストコロナにおける活動に向けたNPO法人・市民活動団体アンケート調査」を実施(再掲)

前回答申と対応した主な取組④

項目	内容(概要)とそれに対応する主な取組
④ 協働の実践を通じて人材を育てる	<p>・課題解決、新たな活動や枠組みづくりを協働で行うためには、<u>活動のゴールイメージを共有し、そのための対話や合意形成の仕組み作りや取組を行政も市民も行っていく必要がある。</u></p> <p>・個人では活動に関わったことのない市民や、これから活動を始めたいと思う市民が、<u>身近な活動に参加し、協働に触れるための研修や講座、社会参加のきっかけとなる取組が大切。</u></p>
 <p>様々な主体の交流・連携から新たな知を生み出す場</p> <p>対話 & 創造ラボ</p> <p>FEB 18 (FRI)</p> <p>19:00-21:00 オンライン配信</p> <p>第三回 協働の実践から学ぼう</p> <p>機会をアップデートするための【協働】を紐解こう！</p> <p>鶴見川の総合治水と多様な流域治水の展開</p> <p>GUEST NPO法人鶴見川流域ネットワーク 岸由二さん</p>	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 「対話&創造ラボ」や「協働トライアルセミナー」の実施➤ 市職員の「協働」に関する研修➤ 交流中から活動のヒントを見つける「ヨコハマミズベサロン」などの講座の実施

前回答申と対応した主な取組⑤

項目	内容(概要)とそれに対応する主な取組
⑤ 協働モデルの蓄積	<p>・協働の成功事例の共有、蓄積に加え、提案や相談があったものの、<u>実現には至らなかった相談案件などについても、その要因を分析し、今後の課題解決の参考事例として蓄積すること。</u></p>
	<p>【主な取組】</p> <ul style="list-style-type: none">➤ 横浜市市民協働推進センターや各区市民活動支援センターにおける相談対応、事例の蓄積➤ ファシリテーター派遣による自己評価実施と、その結果を踏まえた「よこはま夢ファンド組織基盤強化助成金」申請への制度見直し

依頼①

令和元年度から令和3年度の取組への評価

市民協働に係る取組について、評価をお願いします。

■ 前回の答申を受けて実施した主な取組への評価

※当該スライド4ページから8ページにて整理しました。

■ その他の取組への評価

依頼②

今後の横浜の市民協働のあり方について

これから3年間で取り組むべき事項について、ご議論をお願いいたします。

<検討の論点(案)>

- ・コロナ禍における市民協働
- ・中間支援組織のあり方
- ・担い手不足の解消
- ・多様な主体との連携 など